

2024年8月29日

各 位

県内大学生の就職観に関する調査

～求める安定性と快適な職場環境～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 矢野 一成）では、このたび標記の調査結果を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

なお、詳細は2024年9月1日発行の「IRC Monthly」2024年9月号に掲載予定です。

記

【調査概要】

- ・ IRCでは2009年から県内大学生を対象に、意向や暮らしぶりを把握するための調査を実施している。今回は大学生の就職活動、就職観を中心に調査した。学生の**就職希望地域**を尋ねたところ、43.0%が県内就職を希望した。出身地別にみると、県内就職希望者は県内出身者で65.7%となったが、県外出身者では12.0%にとどまった。
- ・ **就職先を選ぶ際に重視すること**を①労働条件②企業満足度③仕事満足度の3つに分けて尋ねた。①では給与水準や休日・休暇、②では職場の雰囲気や安定感、③ではやりがいややりたい仕事、自分の能力を生かせる仕事を重視する学生が多かった。全体を通してみると、自身の仕事満足度よりも、現実的な労働条件や企業満足度に関する項目の方が重要度が高くなる傾向があった。
- ・ **就職後の意向**では、57.0%が最初の就職先で長く働きたいと回答。積極的な転職や、起業を望む学生は少ない結果となった
- ・ 就職活動は大学での就活ガイダンスなどが開催されることから、3回生前期から開始する学生が多い。また、**インターンシップ**について尋ねると、約7割弱の学生が参加済み、参加予定と回答しており、高い関心を持っていることがうかがえる。参加日数は5日程度を希望する学生が多い一方で、1日以内のプログラムに参加した人の割合が高かった。インタビューではインターンシップを通して「社風や実際の業務を体感したい」と答える学生が多かった。
- ・ 企業・大学・行政は連携しながら、効果的な情報発信や関係性構築の場を提供していき、学生に対して県内企業の認知度向上を図っていく必要がある。学生の多くは、長く働き続けられる職場を求めており、社内の人間関係に対する関心も高い。インターンシップ等の取組みを通して、実際の会社や社員の雰囲気を知ってもらうことは学生の県内就職を促進するうえで非常に重要となる。

以 上

【本件に関するお問い合わせ】株式会社いよぎん地域経済研究センター（担当：富永） TEL (080) 2990-1206

はじめに

IRC では県内大学生の意向や暮らしぶりを把握するため、2009 年からアンケートを実施している。今回は人手不足が深刻化する雇用環境の中で注目が集まる大学生の就職動向に迫るべく、就職活動の実態や就職観を中心にアンケートとオンライン取材を行った。

アンケートの概要	
時期	2024年5月下旬～6月中旬
対象	愛媛大学・松山大学の学生
方法	・Webアンケートシステムによる配信・回答 ・アンケート内で取材対象者を募集
回答者数	374人
性別	男性205人(54.8%) 女性165人(44.1%) 答えたくない4人(1.1%)
学年	1回生:36人(9.6%) 2回生:97人(25.9%) 3回生:197人(52.7%) 4回生:36人(9.6%) その他:8人(2.1%)
学部	文系328人(87.7%) 理系46人(12.3%)
出身地	愛媛県:216人(57.8%) 四国3県:57人(15.2%) 中国地方:65人(17.4%) 九州地方:8人(2.1%) 関東地方:2人(0.5%) 関西地方:21人(5.6%) その他:5人(1.3%)

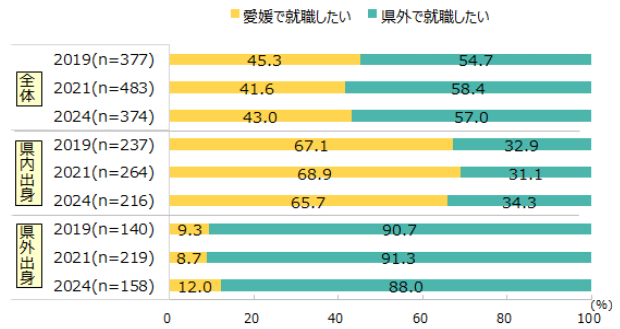
オンライン取材の概要	
時期	2024年6月下旬～7月中旬
対象	愛媛大学・松山大学の学生
方法	zoomを使用
取材者数	10人
性別	男性6人、女性4人
学年	1回生1人/2回生1人/3回生5人/4回生3人
学部	文系6人、理系4人

1. キャリア観について

(1) 就職希望地域

就職希望地域を尋ねると、全体で「愛媛で就職したい」と答えたのは 43.0%、「県外で就職したい」と答えたのは 57.0%だった。また、県内出身者では 65.7%が県内就職を希望したが、県外出身者の県内就職希望者は 12.0%にとどまっている(図表-1)。全項目通して、他の年とほぼ同水準の結果となった。

図表-1 就職希望地域



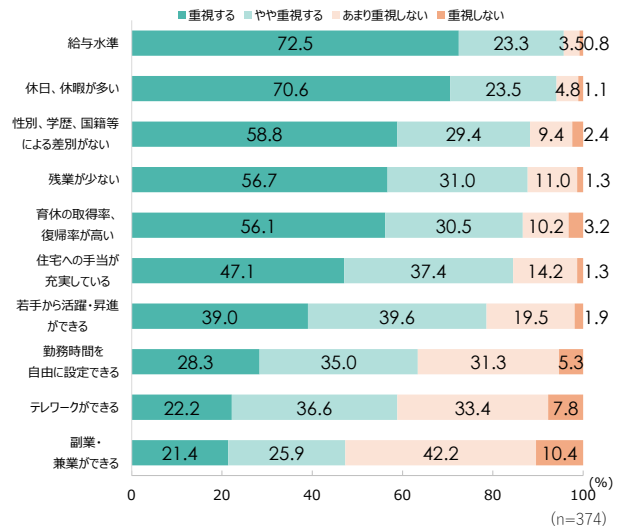
(2) 就職の際に重視すること

学生が就職の際に重視することを、①労働条件 ②企業満足度③仕事満足度の3つに分けて尋ねた。

①労働条件

労働条件に関する項目を尋ねたところ、「給与水準」を重視すると答えた学生は72.5%となった(図表-2)。ただ、インタビューでは「充実した生活を送れる給与水準があればよい」という意見が多く、高収入を望む人は少なかった。その他にも「休日、休暇が多い」を重視すると答えた学生も多く(70.6%)、仕事に偏重することなく、余暇の充実を望む学生が多いことが分かる。一方で、テレワークや副業・兼業などに関しては、あまり重視しない傾向がみられた。

図表-2 重視すること(労働条件の充実度)

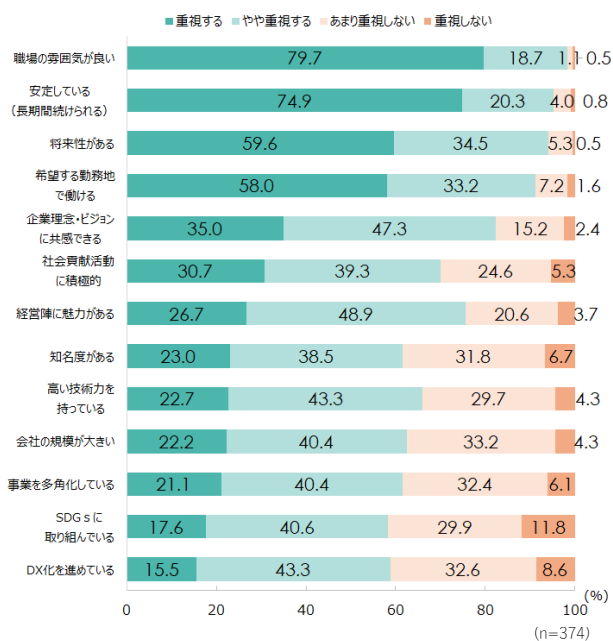


②企業満足度

企業満足度に関する項目では、「職場の雰囲気が良い」(79.7%)や「安定している」(74.9%)が多かった(図表-3)。そのほか、「将来性がある」(59.6%)、「希望する勤務地で働ける」(58.0%)も高い割合となり、やや重視するとの回答と合わせて90%を超える結果となった。一方で、「知名度がある」(23.0%)、「会社の規模が大きい」(22.2%)などは、低い傾向が見られる。

SDGsやDXに関しても重視する割合は低い結果となった。好印象を抱く学生は多いが、企業選びにおける優先度はやや低いようだ。

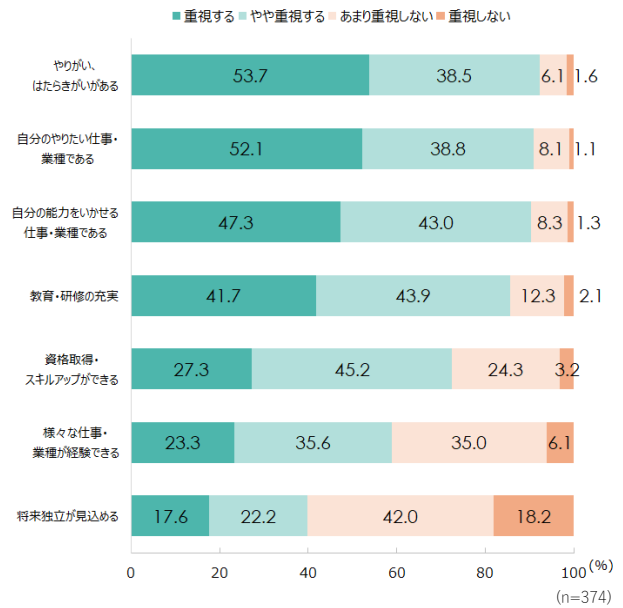
図表-3 重視すること(企業満足度)



③仕事満足度

仕事選びの際に重視することを尋ねたところ、「重視する」、「やや重視する」と答えた割合が多かったのは、「やりがい、はたらきがいがある」(92.2%)、「自分のやりたい仕事・業種である」(90.9%)、「自分の能力をいかせる仕事・業種である」(90.3%)であり、いずれも9割を超えた。一方で、「将来独立が見込める」(39.8%)を重視する傾向は低い(図表-4)。

図表-4 重視すること(仕事満足度)

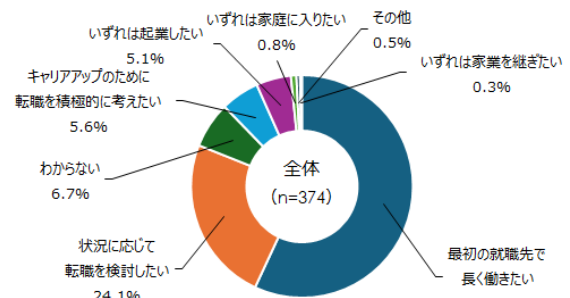


全体を通してみると、充実した生活を送ることができる給与水準に加えて、企業の雰囲気や安定性、休日や休暇といった、ストレスのたまりにくい精神的な安定性を求める声が多かった。自身の仕事満足度よりも、現実的な労働条件や企業満足度に関する項目の方が重要度は高くなる傾向があり、堅実なビジョンを描いている学生が多いようだ。

(3) 就職後の意向

就職後の働き方について尋ねたところ、「最初の就職先で長く働きたい」(57.0%)と答えた人が最も多く、次いで「状況に応じて転職を検討したい」(24.1%)が多い結果となった。「キャリアアップのために転職を積極的に考えたい」(5.6%)、「いずれは起業したい」(5.1%)、「いずれは家庭に入りたい」(0.8%)、「いずれは家業を継ぎたい」(0.3%)と答えた学生は少なく、入社した企業で長く続けていくことを望む学生が多かった(図表-5)。

図表-5 インターンシップ参加予定日数

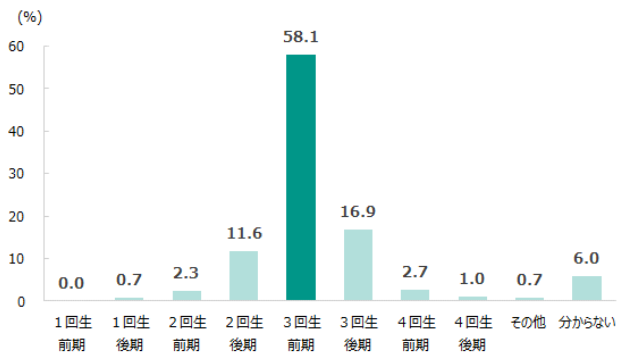


2. 就職活動について

(1) 就職活動の準備時期

まず、就活の準備開始時期を尋ねたところ「3回生前期」が58.1%と最も多い結果となった(図表-6)。この時期は、大学での就活ガイダンスなどが開催されることから、就活への意識が一気に高まるようだ。

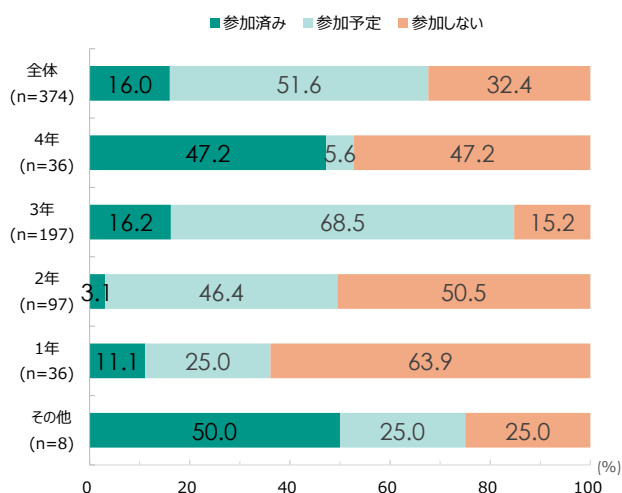
図表-6 就職活動の準備時期



(2) インターンシップの参加実績、参加予定

インターンシップ(オープンカンパニー、キャリア教育を含む)に「参加済み」、「参加予定」と答えた学生は合わせて67.6%となった。学年別に見ると、3回生の「参加済み」、「参加予定」は84.8%と特に高く、就活の開始にあわせて高まっていくものと思われる(図表-7)。また、インタビューでは、インターンシップへの参加は必須になってきていると答えた学生もいた。

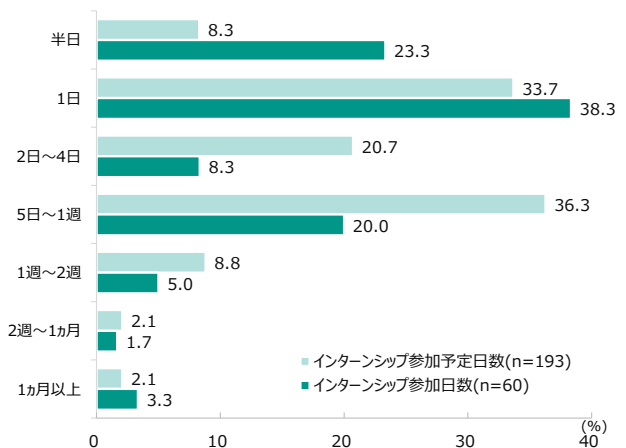
図表-7 インターンシップ参加実績、参加予定



(3) インターンシップ参加日数

インターンシップ(オープンカンパニー、キャリア教育を含む)に参加した経験がある学生に、参加日数を尋ねると、最も多かったのが「1日」(38.3%)だった(図表-8)。今後参加を予定している学生に、想定している参加日数を尋ねたところ、「5日~1週」(36.3%)、「1日」(33.7%)が高い割合となった。5日以上インターンシップを希望する学生が多い一方で、日程の都合等により参加できない状況もあるようだ。ただ、インタビューでは「社風や、実際の業務を体感したい」と答えた学生が多かった。企業側は雇用のミスマッチ防止、人材確保の観点からも、こうした意見を参考にして、就業体験を含んだより実践的なプログラムを組んでいくことが求められる。

図表-8 インターンシップ参加予定日数



おわりに

大学生の県内就職を促進するためには、学生たちの就職観に則した魅力的な就職先が必要となる。そのためには、まず企業・大学・行政が連携しながら、効果的な情報発信や関係性構築の場を提供していき、学生に対して県内企業の認知度向上を図っていく必要があるだろう。そして、会社説明会やインターンシップなどの機会を通して、会社や社員の雰囲気を感じてもらうことが非常に重要と考えられる。特にインターンシップへの参加が一般化していることから、県内企業においては、学生のニーズに応えられるよう、実施の検討及び内容の充実が望まれる。(富永 祐生)